

第3章 指導と評価の計画

国語総合（事例）

単元名 論理の構成を工夫し、自分の考えを表現する
「書くこと」

<ポイント>

優れた文章を読んで、論理の構成・展開を学ぶ

(1) 単元の目標

- ・優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとする。 (関心・意欲・態度)
- ・優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 (書く能力) ⇒ 「書くこと」の(1)のエ
- ・文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにする。(知識・理解)

⇒ [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]の(1)のイの(イ)

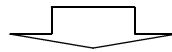
(2) 取り上げる言語活動と教材 (※1)

言語活動 授業で学習した評論文などを参考にしながら自分の意見を書くこと

教材 評論文 (山崎正和「水の東西」、黒崎政男「テクノロジーと人間らしさ」、加賀野井秀一「あいまいな日本人?」、鈴木孝夫「ものごとことば」など)

(3) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	書く能力 (※2)	知識・理解
① 学習した評論文などの論理の構成や展開を、書くことに生かし、説得力のある文章にしようとしている。	① 学習した評論文の論理の構成や展開を書くことに生かし、説得力のある文章にしている。	① 文章の組立てや段落相互の関係を理解している。 ② 語句の意味や用法について理解している。



(4) 指導と評価の計画

次	学習活動	評価の観点			評価方法 (※5)
		関	書	知	
1	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が書きたいテーマを決め、それを書くための参考となる資料を収集する。 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の評論文 ・図書館やインターネットの利用 ○資料を参考にし、どのように論を展開するか構想を練る。 <ul style="list-style-type: none"> ・キーワード ・比較するもの ・文章の構成)などを検討 ○自分の意見を書く。(※3) 	①			<ul style="list-style-type: none"> ○行動の観察 ① ○記述の点検 <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・作品 (意見文) ○記述の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・作品 (意見文)
2	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の書いた文章と、参考とした文章を比較する。 <ul style="list-style-type: none"> ・参考とした文章の構造が踏まえられているか確認 ○文章を推敲する。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の表現の見直し ○書いた文章をグループで批評し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループで作品を交換し、互いに批評し合う (自己評価・相互評価) (※4) 		①	①	<ul style="list-style-type: none"> ○記述の分析 <ul style="list-style-type: none"> ・作品 (推敲した最終の意見文) ② ○記述の確認 ○行動の観察 ○記述の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価・相互評価のシート

(5) 指導と評価の視点

○ 言語活動の充実

新学習指導要領では、生徒の思考力・判断力・表現力等を育成する手立てとしてすべての教科科目で言語活動の充実を図ることとしています。国語科においては、各科目の内容の(1)に示す指導事項を、内容の(2)に示す言語活動例を通して指導します。

事例では、「授業で学習した評論文などを参考にしながら自分の意見を書くこと(※1)」という言語活動を通して、「優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。」を指導することとしています。

言語活動を取り上げる際には、次の2点に注意しましょう。

①身に付けさせたい能力を育成するのにふさわしい言語活動かどうか

②扱う教材の特徴(特性)と言語活動が合っているかどうか

なお、学習指導要領に示されている言語活動は例として示されているので、これらの全てを行わなければならないものではなく、それ以外の言語活動を取り上げることも考えられます。

○ 単元の目標をしぼり込む

国語における指導内容の3領域(「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」)については、一つの単元で1領域を扱うのが適当です。目標をしぼることによって、目標に準拠した評価が可能となります。

事例では、「B書くこと」にしぼって目標を設定しています。したがって、評価規準も5つの観点のうち3つの観点のみを示しています(※2)。実際の学習活動の中では、参考とする評論文を読む活動も入っていますが、これらの教材は既習の教材で、ここでは「書くこと」を指導するための教材と捉えているため、評価も「書く能力」の観点で評価します。

○ 学習形態の工夫

学習内容に応じて学習形態を工夫することは、生徒の主体的な学びにつながります。

事例では、1次は、個別学習で個々のペースに合わせて自分の意見を文章にまとめていきます(※3)。2次では、書き上げた文章をグループ内で交換し、相互に批評し合うこととしています(※4)。

○ 学習評価について

目標として掲げた、生徒に身に付けさせたい力がどの程度身に付いたかを判断するために、具体的な評価規準を設定し評価します。

事例では、生徒の行動やワークシート、作品などを観察、点検、確認、分析することで評価することとしています(※5)。

その際の具体的な評価規準として、次のような規準が考えられます。

○参考とした評論文の論理の構成や展開を、書くことに生かし、説得力のある文章にしようとしている。【関心・意欲・態度】

○参考とした文章の構成や展開を捉えている。【書く能力】

○参考とした文章の構成や展開を生かし、説得力のある文章にしている。

【書く能力】

○キーワードや具体例を適切に用いて表現している。【書く能力】

○語句の意味や用法について理解している。【知識・理解】

○常用漢字の音訓を正しく使っている。【知識・理解】 など。

日本史B（事例）

単元名 近代産業の発展と資本主義の確立
「(4) 近代日本の形成と世界」

<ポイント>

指導の計画から評価の総括まで
資料活用の技能の評価

(1) 単元の目標

工業を中心とした近代産業の急速な発展によって我が国の資本主義が確立したことを、国民生活の変化や社会問題の発生に着目しながら考察する。

(2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
①我が国の近代産業の発展と資本主義の確立に対する関心と課題意識を高める。 ②我が国の近代産業の発展と資本主義の確立について意欲的に追究している。	①我が国の近代産業の発展と資本主義の確立から課題を見だし、国民生活の変化や社会問題の発生と関連付けて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	①我が国の近代産業の発展と資本主義の確立に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択している。 ②我が国の近代産業の発展と資本主義の確立に関する情報を読み取ったり図表にまとめたりしている。	①我が国の近代産業の発展と資本主義の確立についての基本的な事柄を国民生活の変化や社会問題の発生と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。



(3) 指導と評価の計画

次	学習活動	評価の観点				評価方法
		関	思	技	知	
1	○ワークシートに示された会社の一覧情報からそれらの創業期に関わる特色や現在の日本の産業や経済との関連を読み取るとともに、この時代に自分が会社を設立して経営するとすれば何が必要か、思い浮かぶ事柄を記述する。	①		②		・ワークシート
2	○前時で記述した会社の設立等に必要なる事柄と関連付けながら、明治初年の財政や金融、交通・通信、技術、教育制度などに関する出来事を教科書などから選び出して一覧表にまとめ、それらを歴史の展開の中に位置付けて解釈し、簡潔な文章でまとめる。 ○ワークシートの記述を、明治時代の産業や貿易に関する統計資料や学校が所在している地域の近代化遺産の事例などと結び付けながら、近代産業発展の具体的な様子を理解する。			①		・ワークシート ・発言内容 ・ノート
3	○農商務省がまとめた『職事情』などの資料から、労働者の勤務や生活の具体的な状況を読み取るとともに、「夜業」を行う経営上の理由やその影響を整理する。 ○社会問題の解決をめざした討論会の開催を想定し、資本家の代表と労働者の代表がそれぞれの主張を述べた上で、近代産業が発展し資本主義が確立する明治時代の政府の立場としての考えを述べる。	②	①		②	・ワークシート ・発言内容
	・ペーパーテストの実施				①	①

(4) 指導と評価の視点

○ 「日本史B」における観点別評価について

新しい学習指導要領では、導入部分の(1)ア「歴史と資料」、新設項目の(2)ア「歴史の解釈」、(3)ア「歴史の説明」、まとめに当たる(6)ウ「歴史の論述」において、諸資料を活用して、歴史を考察し表現する学習が重視されています。

この学習では、①歴史の展開の中に有意義な課題を見いだして自ら考察し、その過程や結果を表現する能力、②歴史の考察に際して、資料を適切に収集・選択し活用する技能、③歴史は単なる記憶ではなく、自ら考察し表現しながら理解するものだという意識を育てようとしています。このために、四つの観点に基づく目標に準拠した評価を重視し、適切な評価規準や評価方法を設けて評価することが必要です。

○ 評価規準の設定について

評価規準の設定については、以下のような基本形が考えられます。この基本形を参考に、それぞれの学校自身の指導計画や授業実践に基づき、生徒の実態に応じて適切に設定することで、「日本史B」の指導に生かす評価につながります。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none">・〇〇と社会や文化の特色に対する関心と課題意識を高めている。・〇〇と社会や文化の特色について意欲的に追究している。	<ul style="list-style-type: none">・□□から課題を見だし、△△と関連付けて多面的・多角的に考察（するとともに国際社会の変化を踏まえ構成に判断）し、その過程や結果を適切に表現している。	<ul style="list-style-type: none">・〇〇と社会や文化の特色に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択している。・〇〇と社会や文化の特色に関する情報を読み取ったり図表にまとめたりしている。	<ul style="list-style-type: none">・□□についての基本的な事柄を、△△と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。

○ 観点別評価の進め方

事例において、具体的に観点別評価を進める場合、例えば、次のような評価活動が考えられます。（評価場面：第2時）

【評価規準 資料活用の技能①】

教科書などの諸資料から、近代産業の発展と産業基盤の整備に関する有用な情報を適切に選択して、一覧表や簡潔な文章にまとめている。

【「おおむね満足できる」状況（B）】

●教科書から有用な情報を適切に選択するとともにワークシートの記述内容と合わせて表を作成し、日本の資本主義の特色について文章をまとめている。

【「十分満足できる」状況（A）】

●教科書から読み取った各分野の情報相互の関連に着目して文章をまとめている。

○ 言語活動の充実の工夫

●資料を用いて考察し、説明する活動

事例では、第1次において、現在の会社名、創業年、創業当時の会社名などを示した「会社の一覧」により、創業期に関わる産業の特色や現代の資本主義とのつながりについて、考察し説明する活動を行います。気付いたことや理解したことをグループで話し合ったり、その活動の後に再び自分の考えを書いてまとめたりする活動も考えられます。

●様々な分野を相互に関連付けて表現する活動

また、第2次において、「日本の資本主義の確立に向けて」などのテーマを設定し、財政・金融、交通・通信、技術、教育制度などの各分野でテーマに関する必要な事柄を取り上げ、相互に関連付けて一覧表にまとめる活動を行います。また、この学習の成果をグループで話し合ったり、まとめ一覧表について全体で発表したりする活動も考えられます。

現代社会（事例）

単元名 生命に関わる諸課題

「(1) 私たちの生きる社会」

<ポイント>

幸福、正義、公正の習得
状況の評価

(1) 単元の目標

- ・生命に関わる諸課題について、様々な資料を通して多面的・多角的に考察させ、公正に判断させるとともに、その過程や結果を適切に表現させる。
- ・現代社会の諸課題や社会の在り方を考察する基盤としての幸福、正義、公正について理解させ、その知識を身に付けさせる。

(2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
①生命に関わる諸課題に対する関心が高まっている。 ②生命に関わる課題を意欲的に追究している。 ③生命に関わる課題を自己の生き方と関連させながら考察しようとしている。	①生命の諸課題について、自己との関わりに着目して課題を見いだしている。 ②生命に関わる課題について幸福、正義、公正などの観点から多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	①生命の諸課題に関する資料を様々なメディアを通して収集している。 ②収集した資料の中から学習に役立つ情報を適切に選択して、効果的に活用している。	①現代社会において生命に関わる様々な課題が生じていることを理解し、その知識を身に付けている。 ②現代社会の在り方を考察する基盤として幸福、正義、公正などについて理解し、その知識を身に付けている。

(3) 指導と評価の計画

時	学習活動	評価の観点				評価方法
		関	思	技	知	
1	○バイオテクノロジーが人類全体の幸福に貢献した事例についてグループで話し合い、発表する。 ○資料から、遺伝子組換え作物の特許をめぐる、多国籍企業と個人経営農家の主張の相違点を把握し、ワークシートに記入する。 ○遺伝子組換え作物の特許をめぐる具体的な資料を収集する。	①			①	・活動状況の観察 ・発表 ・ワークシート ・活動状況の観察
2	○収集した資料を、多国籍企業と個人経営農家のそれぞれの主張に関わるものに分類する。 ○分類した資料を基に、多国籍企業と個人経営農家それぞれの立場における「幸福」についてワークシートに記入し、論点を整理する。			②		・活動状況の観察 ・ワークシート
3	○遺伝子組換え作物の特許の事例を用いてパネルディスカッションを行う。 ○パネルディスカッションの役割を通して、遺伝子組換え作物の特許をめぐる多国籍企業と個人経営農家の「幸福」の対立をいかに合意に導くか考察する。 ○各自が考えた対立状況の解決策をワークシートに記入する。		②			・発言内容 ・ワークシート

(4) 指導と評価の視点

○ 言語活動を充実させるための工夫について

「現代社会」の学習において言語活動を行うためには、生徒自身が学習内容について課題を見だし、その解決に向けた取組について、自己の意見を形成していることが前提となります。

課題を見いだすためには、どのような考え方が人々の「幸福」につながるのか、「正義」、「公正」を実現するための取組になるのか、という視点に立って学習内容を理解し、考察する必要があります。課題に対する自分の考えを明確な理由とともに形成することができれば、授業において政策的な内容を伴った言語活動を展開することができます。

学習活動の中で言語活動の充実を図るためには、次の様な方法が考えられます。

◎ 「言語活動の充実」を図る事前活動

- ・文章等を図式化する作業
- ・可視化した学習内容の確認
- ・可視化した学習内容の解説文作成
- ・課題の発見と解決に向けた意見形成

◎ 「言語活動の充実」に係る活動

- ・グループを形成し各自の課題を発表
- ・各自の課題に対する意見交換
- ・最重要課題の選定と対策案の協議

◎ 「言語活動の充実」を発展させる取組

- ・様々な形態の学習活動（ディスカッション・ディベートなど）への進展

○ 評価規準の設定について

「現代社会」における評価規準の設定については、以下のような基本形が考えられます。この基本形を参考とし、内容の特性や生徒の実態等を踏まえて適切な評価規準を設定することが、「現代社会」の指導に生かす評価につながります。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・【社会的事象】に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、【在り方など】について考察しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【社会的事象】から課題を見だし、【在り方など】について幸福、正義、公正などを用いて多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【社会的事象】に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して、効果的に活用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【知識・概念など】について理解し、その知識を身に付けている。

○ 事例における観点別評価の進め方

事例において、具体的に観点別評価を進める場合、例えば、次のような評価活動が考えられます。

【評価規準 知識・理解②】

現代社会の在り方を考察する基盤としての幸福、正義、公正などについて理解し、その知識を身に付けている。

【「おおむね満足できる」状況（B）】と判断できる生徒の記述内容

●多国籍企業と個人経営農家は共にそれぞれの利益を求めてそのような主張をしていること（「幸福」）、両者を含んだ社会全体にとって正しい解決策は何かと考える際に（「正義」）、両者が互いに対等に主張でき、両者の立場が共に幾分か認められた解決策となるよう配慮されること（「公正」）、が大切である、といった内容を記述している。

これに対し、例えば、解決策を考える際に必要となる公正さの確保において、様々な他者を想定できている記述の場合は、【「十分満足できる」状況（A）】と判断でき、例えば、両者の利益の違いに言及できていない記述の場合は、【「努力を要する」状況（C）】と判断できます。

数学 I (事例)
 単元名 鋭角の三角比
 「(2) 図形と計量」

＜ポイント＞
 関心・意欲・態度の評価
 数学的な見方や考え方の評価
 総括テストでの工夫

(1) 単元の目標

鋭角の三角比の意味と相互関係について理解し、それらを図形の計量に活用することができる。

(2) 具体的な評価規準

関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
①鋭角の三角比や三角比の相互関係に関心をもち、それらを直角三角形の計量に活用しようとしている。	①図形の相似の考え方をを用いて、直角三角形の辺の比を角との関係で捉えることができる。 ②三角比の相互関係について考察することができる。	①直角三角形を用いて考えられる計量の問題を、三角比の記号を用いて表現し処理することができる。 ②三角比の相互関係を用い、与えられた三角比の値から残りの三角比の値を求めることができる。	①正弦、余弦及び正接を直角三角形の辺の比と角との関係として理解し、基礎的な知識を身に付けている。 ②三角比の相互関係について理解し、基礎的な知識を身に付けている。

(3) 指導と評価の計画 (6時間)

時	○目標、・学習活動	評価の観点				評価方法
		関	考	技	知	
1	○木や建物の高さなど直接測量できないものの高さの測量を考える。 ・4人ずつ10グループに分かれ、校舎や木の高さを求める。		①			レポート
2	○三角比の定義について理解する。		①			観察
3	○三角比の表を用いて、いろいろな図形の計量をすることができる。 ・三角比の表を基にして三角比の特徴を述べる。 ・いろいろな図形の計量を三角比を用いて表現し求める。				①	観察 確認テスト1
4	○三角比の相互関係について理解する。 ・正弦、余弦、正接のいずれかの値が決まれば他の値が決まることに気付く。 ・三角比の相互関係について説明する。		②			観察 観察
5	○三角比の相互関係を用いて、与えられた三角比の値から残りの三角比の値を求めることができる。				②	観察 確認テスト2
6	○本単元の学習内容を振り返り、その定着を確認する。 ・節末問題の解答を板書し説明する。	ここでは、本単元全体を振り返り、関心・意欲・態度の評価も行う。				単元テスト

(4) 指導と評価の視点

○ 関心・意欲・態度の基本的な考え方

この観点では、少なくとも次の3点をみる必要があります。

- ・ 数学の論理や体系に関心をもっているか。
- ・ 数学のよさを認識しているか。
- ・ 事象の考察に学習した内容を活用して（判断しようとして）いるか。

授業、確認テスト、単元テストやレポートなどで次のように問うことで評価をすることができます。

- ・ ～を学習して考えたことをその内容に関連させて（簡潔に）述べなさい。
- ・ ～を学習して疑問に思ったことをその内容に関連させて具体的に述べなさい。
- ・ ～を学習して面白いと思った考え方などを述べなさい。また、その理由を簡潔に述べなさい。
- ・ ～で学習した内容を活用して解決できると考えられる場面を述べなさい。また、どのように活用して解決するのかを述べなさい。

なお、関心・意欲・態度の評価では、その観点の趣旨から考えて、やや長い期間で評価の方がよいでしょう。また、評定につながる評価は、適宜、教師の観察の結果も加味して評価するようにします。

《本単元での問いの例》

- ・ 直接測ることのできない木の高さを、三角比を活用して測る方法を述べなさい。
- ・ 三角比の相互関係を用いて解決することができる問題を1題作りなさい。また、その問題の解き方を述べなさい。

○ 数学的な見方や考え方の基本的な考え方

この観点では、少なくとも次の2点をみる必要があります。

- ・ 数学的な見方や考え方を身に付けているか。
- ・ 自分の考えなどを適切に表現できているか。

数学的な見方や考え方については、数学が構成されていくときの中心となる見方や考え方と、問題解決の過程などにおいて数学を活用していくときの見方や考え方に大きく分けられます。

また、「自分の考えなどを適切に表現できる」ということについては、言語活動の充実とも関連します。口頭での表現に加えて、高等学校数学では記述表現をより重視するべきです。記述表現を重視する方が生徒の思考を深めることになり、評価もよりの確に行うことができるからです。

《本単元での問いの例》

- ・ $\sin 35^\circ$ は0.5736である。これはどのようなことを表しているか。図などを用いて説明しなさい。
- ・ 直角三角形ABCにおいて、 $\sin^2 A + \cos^2 A = 1$ が成り立つ理由を説明しなさい。

○ 総括テストでの工夫

ここで総括テストというのは単元テスト、中間テストや期末テストなどです。

単元テスト	基礎的・基本的な内容を中心に出题し、応用的な内容の割合は小さい方がよい。 → 指導の改善につなげる。
中間テスト 期末テスト	学習した知識や技能を活用するなど応用的な内容も出题する。

出題に関しては4つの観点を踏まえるようにします。その際、評価規準を基にねらいを明確にし、ねらいに応じて問い方も工夫します。ただし、関心・意欲・態度については総括テストでは出題せずに、観察や確認テストなどで評価することも考えられます。なお、応用的な内容については、数学的な見方や考え方の観点を評価する問題として出題できます。

理科・物理基礎（事例）

単元名 音と振動

「(2) 様々な物理現象とエネルギーの利用 イ波
(イ) 音と振動」

<ポイント>

観察・実験を重視した指導計画と観点別評価のつながり

(1) 単元の目標

日常生活や社会との関連を図りながら、音と振動について観察、実験などを通して探究し、基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

(2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
①音の伝わり方や3要素に関心を持ち、意欲的に探究しようとする。 ②共振現象に関心を持ち、身近な現象と関連付けて主体的に考えようとする。	①弦にできる定在波の性質と、弦を伝わる波の速さの定性的関係により弦楽器の原理について科学的に判断し、表現している。 ②開管、閉管それぞれにできる定在波について実験を通して定量的に考察し、科学的に判断して表現している。	①コンピュータを用いて音の3要素を調べる実験の方法を身に付けている。 ②定在波を用いて弦を伝わる波の速さを調べる実験の方法を身に付けている。 ③気柱の共鳴に関する実験の方法を身に付けている。 ①～③において、得られた結果を的確に記録している。	①音の3要素について理解している。 ②弦を伝わる波の速さ、波長、振動数の関係について理解している。 ③気柱の共鳴条件について理解している。 ④うなりについて理解し、知識を身に付けている。



(3) 指導と評価の計画

時	学習活動	評価の観点				評価方法
		関	思	技	知	
1	○音の伝わり方を考察する。 ○音の3要素についてコンピュータを使った観察、実験を行う。 【ICT活用・生徒実験】	①		①		・行動観察 ・実験レポートの記述内容の分析
2	○弦にできる定在波を観察し、作図する。 ○弦を伝わる波の速さの実験を行う。 【生徒実験】			②	②	・行動観察 ・実験レポートの記述内容の分析
3	○弦楽器の原理を考察する。		①			・行動観察 ・実験レポートの記述内容の分析
	○開管、閉管にできる定在波の特徴を考察し、作図する。		②			
4	○気柱の共鳴実験を行う。 【生徒実験】			③	③	・行動観察 ・実験レポートの記述内容の分析
5	○共振現象の実験を行う。 【演示実験】 ○映像教材を視聴する。 【ICT活用】	②				・ワークシートの記述内容の分析
6	○うなり現象の実験を行い、作図する。 【演示実験・作業的活動】 ○単元のまとめ				④	・ワークシートの記述内容の分析 ・小テスト

(4) 指導と評価の視点

○ 観察・実験の重視

理科の目標である「科学的に探究する能力と態度の育成」「科学的な自然観の育成」を達成するためには、観察・実験を単元内に位置付けて指導を行うことが重要です。観察・実験には大きく分けて「生徒実験」と「演示実験」があり、授業のねらいに応じてどちらを取り入れるか適宜判断する必要があります。

【観点別評価との関係】

観察・実験には観点別評価のうち「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「観察・実験の技能」の3つの要素が含まれており、総合的に生徒の理科に関する力を評価することができます。評価に当たっては、実験中の生徒の行動観察や実験レポートの記述を分析することが考えられます。

○ 実験レポートやワークシートの工夫

授業において生徒が思考を働かせながらスムーズに実験や作業を進め、本時の目標を達成できるようにするとともに、指導者が生徒の思考の流れや変化を把握できるように実験レポートやワークシートを工夫する必要があります。

【観点別評価との関係】

◆ 関心・意欲・態度

「既存の知識」「感想」「これから調べてみたいこと」などの項目を設ける。

<評価の視点>

- ・自然現象への関心や疑問、知りたいことを明確に表現している。
- ・日常生活で見られる事象と関連させるなど意欲的な記述がある。

◆ 思考・判断・表現

「予想（仮説）」「考察」などの項目を設ける。

<評価の視点>

- ・既習事項などの根拠を基に、観察、実験の結果を予想している。（仮説を立てている）
- ・観察、実験の目的に応じて、結果を分析して解釈している。
- ・結果に基づいて、論理的に考察を進め、自分の考えを導いている。
- ・文章、図、表、グラフ、式、モデルなどを用いて、適切に自分の考えを表現している。

◆ 観察・実験の技能

「データ記入」「実験を進める上での工夫点」「反省点」などの項目を設ける。

<評価の視点>

- ・安全に配慮しながら実験器具を正しく使用しているか。
 - ・正確にデータを読み取り記録しているか（誤差を考慮して記録しているか）。
 - ・実験が正確に効率的に進むように工夫しているか。
- ※これらは実験中の生徒の行動観察からも分析できます。

○ 生徒の「興味・関心の喚起」「理解の促進」を図るICTの活用

ICTを活用して、実際に教室では見ることができない現象の映像やシミュレーションを生徒に見せることで、興味・関心を喚起し、理解を助けることができます。

【観点別評価との関係】

映像教材を視聴して「分かったこと」「疑問に思ったこと」「感想」などを具体的に詳しく記述できているかについて分析を行うことが考えられます。

○ 生徒の変容を記録する方法の工夫

【例：1枚ポートフォリオ One Page Portfolio】

単元で扱う事象や現象に関して、学習前に「自分の予想」を記述させ、その後、毎時間の学習記録（自分で考えた授業タイトル、授業で分かったこと、感想）を書かせて回収します。単元終了後に最初の「自分の予想」を検証させます。

この流れを1枚の紙で行うことで、生徒が毎時間の学習のポイントを整理できるとともに、単元終了後に生徒も教員も1枚の紙の中で学習の過程と思考の変容を確認することができるという手法です。

(1) 単元の目標【その次の年次以降（3年次）】

ア 次の運動について、記録の向上の喜びや競争の楽しさを味わい、各種目特有の技能を高めることができるようにする。

- ・ハードル走では、スピードを維持した走りからハードルを低くリズムカルに越すこと。
- ・砲丸投げでは、立ち投げなどから砲丸を突き出して投げること。

イ 陸上競技に主体的に取り組むとともに、合意形成に貢献しようとすることや、健康・安全を確保することができるようにする。

ウ 技術の名称や行い方、体力の高め方、競技会の仕方などを理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。

(2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
①陸上競技の学習に主体的に取り組もうとしている。 ②グループの話し合いに、責任をもって関わろうとしている。 ③互いに助け合い高め合おうとしている。 ④健康・安全を確保している。 ⑤記録の向上の喜びや競走の楽しさから陸上競技に自己に適した関わりを持とうとしている。	①課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間の課題を見直している。 ②練習や競技の場面で、自己や仲間の危険を回避するための活動の仕方を選んでいく。 ③陸上競技を生涯にわたって楽しむための自己に適した関わり方を見付けていく。	【ハードル走】 ①インターバルでは、3歩のリズムを最後のハードルまで維持して走ることができる。 ②ハードリングとインターバルの走りを滑らかにつなぐことができる。 【砲丸投げ】 ①準備動作を用いる場合には、準備動作で得た勢いを投げの動作に移すことができる。 ②足の地面への押しや上半身のひねり戻しを使って砲丸を突き出すことができる。	①学習した技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 ②関連した体力の高め方について、学習した具体例を挙げている。 ③競技会の仕方について、学習した具体例を挙げている。 ④審判の方法について、学習した具体例を挙げている。

(3) 指導と評価の計画

時	学 習 活 動	評価の観点				評価方法
		関	思	技	知	
1 2 3 4 5 6 7 8	●オリエンテーションを通して、学習の進め方を知る。 ●自分に適した運動種目を選び、特有の技能を高める。 ○前年度までの復習をする。 ○新しい内容を学習する。 ・課題を明確にする。 ・技能習得に向けた課題別練習を行う。 ・学習ノートを用いて学習状況を確認する。 ○記録会	重点項目 ・互いに助け合い高め合うこと ・関連して高まる体力 ・技術の名称や行い方 ・審判の仕方	① ③	 ① ②	 ④	行動の観察 学習カード
9 10 11 12 13 14	●課題を見直し、各自の計画を立案する。 ●安全を確保し、仲間と主体的に学習する。 ○課題を見直し、解決方法を見付けたり、危険回避の活動の仕方を確認したりする。 ○練習や記録の計測を行う。 ○競技会の準備と運営を行う。	重点項目 ・主体的に取り組む意義 ・危険回避の行動の仕方 ・課題の見直し	① ④	② ①	 ④	行動の観察 学習カード
15 16 17 18 19	●競技会の企画・係分担・ルール等を決める。 ○競技会 ●競技会を通して、陸上競技を生涯にわたって楽しむための自己や仲間に適した関わり方を見付ける。 ●まとめ	重点項目 ・競技会の仕方 ・自己に適した関わり方	②	 ③	 ⑤	学習カード

(4) 指導と評価の視点

関心・意欲・態度

- 観点の特徴…一般的に変化しやすいので、日々の観察の積み重ねが必要となる。
- 具体的な内容…興味・関心・学習意欲・学習への取り組み姿勢・態度 (協調性、公正、責任感、積極性、安全など)
- ☞生徒たちの関心・意欲・態度は、教師や友達から誉められたり、認められたりすることで高まりが見られます。逆に、叱責されたり、期待にそぐわなかったりすると、やる気を失ったり、投げやりになったりもします。更に、日々子ども達をとりまく状況によっても変動があります。したがって、この観点は単元全体を対象とし、ある特定の時間のみの評価を代表値として評価することは避けるようにします。

思考・判断

- 観点の特徴…課題解決的な学習の中で培われていく。
- 具体的な内容…学習課題の発見と設定、課題解決への計画性・方法の工夫、学び方の習得と実践、自己評価・相互評価での判断力
- ☞思考力・判断力は、生徒が課題解決的な学習を行う学習過程の中で培われていきます。そのためには、「どうしてだろう」「なぜだろう」「どうやればいいんだろう」等の疑問をもてるような学習過程や教材の提示の仕方、発問の仕方を工夫することが必要です。また、教師と生徒、生徒同士が互いに考えを発表し合う場を意図的・計画的に計画し、学習に組み込んでいくことが重要です。そして、「何についてどのように考えさせるか」等のねらいを明確にして指導し、それに応じた評価規準を設定することが必要です。

運動の技能

- 観点の特徴…「模倣(まねをする) → 「操作(考えて動く) → 「自動化(考えなくても動ける)」という段階で高まっていく。
- 具体的な内容…個人的技能、集団的技能、体力を高めることができる動作 など
- ☞技能ではとかく「時間(より速く)」や「距離(より遠くへ)」といった“量”を評価しがちですが、記録を更新するための技能、すなわち「振り上げ脚を振り下ろしながら、反対の脚(抜き脚)を素早く前に引き出す」や「足の地面への押しや上半身のひねり戻しを使って砲丸を突き出す」などという動きの“質”を見取ることが大切です(もちろん、記録の更新については、体力の向上も重要な要因となりますが、各運動種目の固有の技能や動き等を身に付けさせることが「運動の技能」における具体的なねらい(学習内容)となります)。また、この観点の評価は、主として動きの“質”を「観察」によって見取ることになり、更に、技能の観点から見える能力は、学習を積み重ねることによって次第に習得されていくものです。よって、生徒一人ひとりの学習状況に着目して、補助的な記録簿等に記述しておくなど、継続的に習熟度を捉えていくことが大切です。

知識・理解

- 観点の特徴…体験的に実感をもって学んだ内容が、学習や生活に「生きて働く知識」になる。
- 具体的な内容…運動の特性の理解、運動技能の知識や理解、健康の保持増進の知識、安全に関する知識
- ☞これまでは、ペーパーテストを中心に「知識の量」を評価することが一般的でした。しかし、知識を大量に身に付けても「生きて働く知識」にはなりにくい。従来からのペーパーテスト中心の評価観から脱却し、口頭試問を行ったり、覚えた知識を使って表現させたり、討論をさせたりするなど、知識を生きて働く形にして表現する学習活動を多く取り入れ、様々な角度から評価できるようにすることが大切です。

芸術・書道 I (事例)

単元名 漢字仮名交じりの書の表現

— 唐代の古典を参考として —

「A (1) 漢字仮名交じりの書」「B 鑑賞」

<ポイント>

漢字仮名交じりの書における指導と評価の工夫

(1) 単元の目標

- ・書の伝統と文化に関心をもって、参考とする古典の表現や鑑賞の創造的活動に主体的に取り組む。
(書への関心・意欲・態度)
- ・参考とする古典のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫する。
(書表現の構想と工夫)
- ・創造的な書表現をするために、参考とする古典の表現の基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表す。
(創造的な書表現の技能)
- ・日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わう。
(鑑賞の能力)

(2) 具体的な評価規準

書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力
①漢字と仮名の文字や字形について関心を持ち、自らの構想に基づいて意欲的、主体的に活動を行おうとしている。 ②参考とする名筆の美しさに関心をもって、表現の構想から完成に至るまで、意欲的、主体的に取り組もうとしている。 ③参考とする名筆の美しさと表現効果を味わい、見ることを楽しむことで、書への関心を高めようとしている。	①唐代の古典や古筆のよさや美しさを感じ取り、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。 ②参考とする名筆の字形や文字の大きさなどが全体の構成に関わることを理解し、表現を工夫している。	①参考とする名筆のよさや美しさを生かして表現する技能を身に付け表している。 ②文字や文字群と余白との関係を理解し、全体の構成を考えた表現の技能を身に付け表している。	①鑑賞と表現は相互に関連していることを理解し、書のよさや美しさを感じ取っている。

(3) 指導と評価の計画

次	学習活動	評価の観点			評価方法	
		関	構	技		鑑
1	○漢字仮名交じりの書の作品の制作過程を理解し、漢字と仮名の字形や文字について関心をもって、意欲的、主体的に学習活動を行う。 ○校歌の歌詞の自分のイメージに合う古典を、初唐の三大家の作品の鑑賞を通して選択し、そのよさや美しさを感じ取る。 ○校歌の歌詞のイメージを大切にしながら、参考とする古典をもとにして集字し、作品を構想する。	①			①	○観察 ○観察、作品構想カードの確認 ○観察、ノートや作品の確認
			②			
2	○参考とする古典を踏まえ、自らの構想に基づいて、校歌の一節を幅広く表現する。 ○古典を生かし、生徒一人一人が自己評価をして豊かな表現を身に付ける。	②		①		○観察、作品の確認 ○観察、作品の確認
			①			
3	○参考とする名筆のよさや美しさを生かしながら、全体の構成を工夫する。 ○相互評価する中で、互いの作品を理解し、自らの作品制作に生かし、名筆を踏まえて幅広く表現する。		②			○観察、ノートや作品の確認 ○鑑賞カードの確認
		③				
4	○制作の意図を明らかにし、自分の作品について発表する。			②	①	○作品・鑑賞カードの確認 ○観察

(4) 指導と評価の視点

○ 言語活動の充実について

書は言葉を書く「表現」であることから、書道教育全体が、言語活動の充実と深い関わりのあることを認識する必要があります。その上で、生徒が自ら考えたり、判断したりする学習活動（言語活動）を取り入れていくとよいでしょう。

具体的な言語活動として、事例では、

○ 作品構想カード等を用いて、制作しようとする作品のイメージや工夫したい点を明確にし、参考とする古典をもとに集字して、作品を構想する活動。

○ 鑑賞カード等を用いて、作品を相互評価する活動。

○ 制作の意図を明らかにし、自分の作品について発表する活動を設定しています。

○ 観点別評価について

芸術科書道の評価の観点は、次のとおりです。

書への関心・意欲・態度	生徒が学習する内容に関心をもち、主体的に表現や鑑賞の活動に取り組もうとする意欲や態度を把握する観点。
書表現の構想と工夫	書表現の諸要素を感受し、自分の意図にあった表現を構想し、工夫を重ねながら表現を深めていく一連の制作過程を評価する観点。
創造的な書表現の技能	臨書活動等を通して、書の効果的な表現の技能を身に付け、技能が制作した作品の中に具体的にどのように表されているかを把握する観点。
鑑賞の能力	文字や書の伝統と文化について理解したり、古典や生徒の作品のよさや美しさを根拠をもって批評したり、創造的に味わっているかを評価する観点。

これらを踏まえ、単元の評価規準や学習活動に即した具体的な評価規準を、生徒の実態等を考慮して各学校ごとに設定します。

事例では、漢字仮名交じりの書を学習する過程における具体的な評価規準の例を示しています。

なお、書道に関する科目の内容は、「A表現」「B鑑賞」の二つの領域で構成されていますが、「A表現」の領域は、「書への関心・意欲・態度」「書表現の構想と工夫」「創造的な書表現の技能」の3つの観点で、「B鑑賞」の領域は、「書への関心・意欲・態度」「鑑賞の能力」の2つの観点で、生徒の実現状況を評価します。

○ 評価方法について

設定した評価規準に照らし、観察、対話、ノート・ワークシート・作品・レポート・ペーパーテストの確認や分析等の評価方法の中から生徒の学習状況を的確に判断できる方法を選択して行います。

例えば、「書への関心・意欲・態度」については、表現活動においては、作品制作の過程の中で表れることが多いので、生徒の制作活動の「観察」を中心として評価をおこないます。「書表現の構想と工夫」については、作品の構想を練るために利用した作品構想カード（ワークシート）や作品を通して評価していきます。

書道においては、作品を通して評価を行う場合が多いと考えられますが、その際には、作品の良し悪しだけを評価するのではなく、文字の大きさや全体の構成等をどのように工夫したかという表現の過程を評価するという視点も大切です。

コミュニケーション英語Ⅰ（事例）
 単元名 My Dreams for the Future
 「読むこと」
 「話すこと」

＜ポイント＞
 「読むこと」から「話すこと」につなげる指導と評価の計画

（１）単元の目標

- ・ペア・ワークにおいて、互いに協力しながら会話を続ける。
- ・人物についての説明を読んで、その内容を口頭で要約する。
- ・読んだことに基づき、自分の将来の夢について話す。
- ・自分の考えや気持ちを伝える表現（hope [that] S' +V' ～など）の使い方を理解する。

（２）取り上げる言語活動と教材

言語活動 読んで得た情報を口頭で要約するとともに、自分自身の考えやその理由を口頭で伝える

教材 海外に渡って成功を収めた日本人の料理人が、どのようにして自分の夢を見つけ、それを実現していったかについて、インタビューを通して紹介する内容

（３）具体的な評価基準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	言語や文化についての知識・理解
①ペアワークにおいて、互いに協力しながら会話を続けている。	①人物についての説明を読んで、その内容を口頭で要約することができる。 ②読んだことに基づき、自分の将来の夢について話すことができる。	①自分の考えや気持ちを伝える表現（hope [that]S' +V' ～など）の使い方を理解している。

（４）指導と評価の計画

次	学習活動	評価の観点			評価方法
		関	表	知	
1	○本文全体について教師のオーラルイントロダクションを聞いたり質問に答えたりして背景知識を高める。 ○ペアでQ-Aを行い、内容を確認する。				
2	○語、連語、慣用表現及び文構造について、意味や用法を確認する。 ○本文を読んで、ワークシート上のSummary Chartを完成させる。 ○ペアでSummary Chartを見ながら、各セクションの内容を口頭で要約するなど。 ○各セクションの内容に対する感想や意見についてキーワードをメモし、そのメモを参考にしながらペアで伝え合う。 ○教科書を閉じてセクションごとに本文の音声を聞き、内容上のキーワードをメモする。 ○ペアになり、メモに基づいて、各セクションの内容を口頭で要約する。	①			① 筆記テスト（後日） 活動の観察及びワークシート インタビューテスト（後日）
3	○本単元で学習したことなどを参考にしながら、自分の将来の夢、その理由及びそれを実現するために必要なことについて考え、そのポイントを簡単にメモする。 ○ペアになり、メモに基づいて、自分の将来の夢について伝え合う。			②	インタビューテスト（後日）

(5) 指導と評価の視点

○ 単元の目標をしぼり込む

- ① 1単元で必ずしも4観点、4技能の全てについて評価をするのではなく、年間を通して各観点、各技能がバランスよく指導され、評価されるよう、系統的な指導と評価の計画を立てることが大切です。
- ② 本事例では、本文の内容理解を図りながら、学習した事項に基づいて話す活動に結び付けることを目指しているため、「外国語表現の能力」を中心に評価しています。

○ 「外国語表現の能力」の評価について

この観点は、自分が伝えたい情報や考えなどを、場面や状況に応じて適切に相手に伝えることができるかどうかについて評価します。

本事例における評価規準及び評価方法は、次のようになります。

評価規準

- ① 人物についての説明を読んで、その内容を口頭で要約することができる。
- ② 読んだことに基づき、自分の将来の夢について話すことができる。

評価方法

本文の内容を口頭で要約したり、自分の将来の夢について説明するインタビューテストにおいて、相手に理解できる英語を使って伝えることができるかどうかを判断する。

- ① 教科書の内容についての口頭要約では、その場で使うべきキーワードを指定するなど、単なる暗記テストにならないよう工夫することが大切です。
- ② 「インタビューテスト」では、1クラスに対して2人の教師を配置し、1人がテストを行い、もう1人がテストを受けていない生徒の指導をするなど、当該学年や科目の担当者の枠を越えた外国語科全体の協力が必要です。

○ 「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」の評価について

- ① この観点では、言語活動への取組や継続の仕方など、実際に指導した内容に対して生徒が努力して取り組んでいるかどうかについて、活動の様子を判断材料として評価します。そのため、英語の正確さや適切さなど、言語運用上の能力や授業中の挙手や発言の回数といった表面的な状況のみに着目することのないよう注意が必要です。また、活動の観察評価だけでは読み取りにくい生徒の取組状況や関心・意欲・態度の変化についてよりよく理解するために、ワークシートやポートフォリオ等による評価を併用することも考えられます。
- ② 本来、この観点の評価の意義は、生徒がコミュニケーションへの関心・意欲・態度を身に付ける過程を教師が把握し、指導に生かすことにあります。したがって、生徒の活動の様子について単に評価するだけでなく、生徒個々の取組状況の変容などを把握し、それを生徒にフィードバックするなどして、個に応じながらクラス全体の関心・意欲・態度の高まりを目指すことが重要です。

○ 4技能を総合的に育成する指導について

新学習指導要領では、「聞くこと」や「読むこと」など受信型の指導ばかりではなく、学んで得た知識を活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することができる表現の能力の育成を強く求めています。

そのため4技能を総合的に育成する指導を通じて、生徒が4技能を統合的に活用できるよう、言語活動を充実させることが重要です。

また、文法指導を言語活動と一体化して行ったり、授業は英語で行うことを基本としたりすることの趣旨は、受信だけではなく発信にも活用できる知識や技能を生徒が得られるよう、指導をより一層充実するということにあります。

これらのことを踏まえ、各学校における観点ごとの評価規準の設定や指導及び評価の実施に当たっては、学期や学年を通じて「外国語理解の能力」と「外国語表現の能力」双方において計画的にバランスよく行うことが必要です。

家庭・家庭総合（事例）

単元名 高齢者の生活と福祉（高齢者との触れ合い）
「(2)子どもや高齢者とのかかわりと福祉」

<ポイント>

指導の計画から評価の総括まで

(1) 単元の目標

高齢者の心身の特徴や高齢社会の現状及び福祉などについて理解させ、高齢者の生活の課題や家族、地域及び社会の果たす役割について認識させるとともに、高齢者の自立生活を支えるための支援の方法や高齢者と関わることの重要性について考える。

(2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
① 高齢者の心身の特徴と生活に関心をもち、学習に取り組もうとしている。 ② 高齢社会の現状や社会福祉に関心を高め、地域福祉の在り方について考えようとしている。	① 高齢者や高齢者を取り巻く社会の課題について具体的に考えている。 ② 高齢者が自立した生活を送るための生活支援やケアの在り方について考えている。 ③ 生涯を見通して高齢期の生活について考えている。 ④ 高齢者福祉に関する課題や解決策などについて考えをまとめたり、発表したりしている。	① 高齢者の日常生活を支援するために必要な基礎的介助ができる。 ② 高齢者と適切に関わることができる。 ③ 高齢者福祉などについて調査したり、情報を収集したり、整理したりすることができる。	① 高齢者の定義や高齢者の身体的特徴と心理的特徴の概要について理解している。 ② 高齢者が社会の一員として自立した生活を送ることの重要性について理解している。 ③ 高齢者福祉や地域福祉システムの基本的な理念などについて理解している。

(3) 指導と評価の計画

時	○学習活動	評価の観点				評価方法
		関	思	技	知	
1 ～ 4	○ 高齢者の身体的な特徴のイメージを図や文章で説明し、「老い」について自分の考えをまとめる。 ○ 新聞記事等を読み、高齢者の定義や高齢者の身体的・心理的特徴についてまとめる。 ○ 現在と50年後の自分を想像し、具体的な場面において、どのような行動をとり、感情を抱くかその立場に立って考える。	①			①	・ 観察、ワークシート ・ ペーパーテスト ・ ワークシート
5 ～ 8	○ 日常生活の介助について実習通して体験し、基礎的な介助技術を身に付ける。 ○ 高齢者が自立した生活を送るための生活支援やケアの在り方について考える。		②	①	②	・ 観察、ワークシート ・ ワークシート ・ ペーパーテスト
9 ～ 12	○ 体験的な活動の前に、視聴覚教材などを視聴して、実習の概要を理解する。 ○ 高齢者施設を訪問し、高齢者と触れ合う活動を通して分かったことや考えたことをまとめる。 ○ 高齢期を迎えるために、どのような準備をし、どのように生きていくか考える。	①			②	・ 観察、ワークシート ・ 観察、ワークシート ・ ワークシート
13 ～ 16	○ 現代社会の高齢者福祉に関する現状や問題点について情報を収集し、整理する。 ○ 収集・整理した資料を基に、現状や課題、その原因や解決策などについてレポートにまとめ、発表する。 ○ 発表を聴き、高齢社会の現状や社会福祉についてまとめる。		④	③	③	・ レポート ・ 観察、レポート ・ ペーパーテスト ・ 観察、ワークシート

(4) 指導と評価の計画を立てる際の視点

○ 題材の設定

家庭科は、社会の変化に対応した内容と関連させ、「現在何が起こっているのか」を認識させつつ、生活の中の課題を考えさせることが重要です。題材を設定する際には、「食に関する指導の充実」、「少子社会への対応」、「超高齢化社会への対応」、「消費者教育の充実」等について、新聞や雑誌等から最新の情報を入手し、様々な角度から考えさせ意見をまとめたり発表したりする指導を充実させることが必要です。

○ 問題解決的な学習活動の充実

生徒には常に各自の生活に目を向けて課題意識をもたせるようにし、実生活への活用を図ることができるように問題解決的な学習を進めることが大切です。そのためには、各項目の学習と「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」との関連を図るなど、計画的、系統的に取り扱うことができるよう、指導計画に明確に位置付けることが重要です。

例えば、ホームプロジェクトでは短期間に実施するミニホームプロジェクトを取り入れるなど、段階的に指導することが考えられます。

【観点別評価の進め方】

自分の考えをまとめるだけではなく、プレゼンテーションやディベート等の活動を取り入れ、観察やレポート等を「思考・判断・表現」の観点から評価します。ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動に発展させて評価することもできます。

○ 言語活動の充実

学習した知識及び技術を活用して生活に関わる諸問題を解決する能力を育む観点から以下のような学習活動を充実させることが重要です。

ア 判断が必要な場面を設けて理由や根拠を論述したり、正解が一つに絞れない課題を考える際、最適な解決方法を探求したりする学習活動

イ 乳幼児や高齢者との触れ合い等を通して自己の考えを明確にし、自己を表現し、他者を理解し、他者と意見を共有し、互いの考えを深めることなどの協同的な関係を築く学習活動

ウ 衣食住などの生活における様々な事象やものづくりなどに関する実践的・体験的な活動を一層重視し、その過程で様々な語彙の意味を実感を伴って理解させる学習活動

【観点別評価の進め方】

事例では、現代社会の高齢者福祉に関するレポートを作成する活動を取り入れ、レポートを「思考・判断・表現」の観点から評価しています。評価するにあたり、あらかじめ生徒に示す評価の観点や「十分満足できる」状況（A）を明確にしてから実施することが重要です。こうすることで、生徒もレポートに取り組みやすくなり、教師の評価も容易で明瞭になります。

生徒に示す評価の観点

ア 現代社会の高齢者福祉に関する現状や課題、その原因や解決策等について調べられているか。

イ アで調べたことについて自分の意見がまとめられ、さらに高齢期や高齢社会について考えているか。

「十分満足できる」状況（A）の例

ア 自分が選んだ課題について、複数の角度から幅広く調べ、よく理解している。

イ 自分が調べたことについてよく意見がまとめられ、高齢期や高齢社主体的に考えている。

○ 観点別評価の総括について

各題材や単元によって重視する観点や評価規準があれば、評価計画作成の段階から評価回数を多くしたり、重み付けをしたりするとともに、観点の趣旨にふさわしい評価方法を適切に選択し組み合わせるなどして、多角的に評価します。

各題材や単元ごとに行った観点別学習状況の評価は、観点ごとに総括して、学期ごとの観点別学習状況の評価とします。その際、補充指導の成果を生かして修正するなど生徒の進歩の状況に配慮する必要があります。

情報の科学（事例）

単元名 （3）情報の管理と問題解決
ア 情報通信ネットワークと問題解決

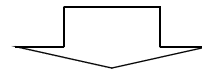
＜ポイント＞
多様な評価対象を定め、
適正な評価を

（1）単元の目標

ブラウザを利用して、複数人でWebページの編集を行うことができるWikiを用いた会議を企画する実習を通して、問題解決における情報通信ネットワークの活用方法を習得させ、情報を共有することの有用性を理解させる。

（2）単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
①問題解決において情報通信ネットワークの活用方法を探ったり、試したりしようとしている。 ②問題解決において、Wikiによる会議などの活動を効率的にしたり、内容を深めたり、興味をもって取り組んでいる。	①問題解決において活動の効率性を向上させるために、情報技術の特性を生かした方法の改善を図り、内容を適切に表現している。	①問題解決においてWikiなどの情報技術を目的や状況に即して活用し、情報を共有し、蓄積することができる。	①問題解決においてWikiなどの情報技術を目的や状況に即して活用するための知識及び利便性や限界について理解している。 ②企画提案書などを作成、発表する際に、問題解決に必要な情報を信頼性や信憑性、著作権やプライバシーに配慮して収集したり、その結果を表現したりするために必要な知識を理解している。



（3）指導と評価の計画

時	学習活動	評価の観点				評価方法
		関	思	技	知	
1	○Wikiの使い方とグループ分け ・Wikiの基本的な活用に必要な知識及び操作を習得する。 ・問題解決におけるWikiの有効な活用方法と限界について理解する。 ・グループ分けや構成、活動方針を決定する。	①			①	活動状況の観察
2	○Wikiによる会議の趣旨と設計 ・Wikiによる会議の趣旨や成果について討議し、問題解決に必要な情報を共有し、蓄積する。 ・Wikiによる会議のテーマ、期日、会場、参加者、運営等についてグループで討議した内容を共有し、企画提案書としてまとめる。 ・Wikiを活用して情報を収集する際、情報の信頼性や信憑性、著作権などに配慮しながら行うための知識を理解する。			①	② ②	企画提案書
3	○Wikiによる情報の収集と編集 ・Wikiによる情報収集の効率性や編集内容の向上を図るためにどのように活動すべきなのかについて考え、適切に表現する。	②	①			ワークシート

(4) 指導と評価の視点

○ 共通教科「情報」における観点別評価について

共通教科「情報」の目標は、

- ①情報及び情報技術を活用するための知識と技術を習得させる
- ②情報技術に関する科学的な見方や考え方を養う
- ③社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させる
- ④社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる

であり、①、②、③を通して④を実現させるという構造となっています。

共通教科「情報」に示された基礎的・基本的な内容を生徒一人ひとりに確実に習得させるためには、この目標に照らしてその実現状況をみる評価(目標に準拠した評価)を重視し、生徒の学習の到達度を適切に評価するとともに、学習指導の改善につなげることが重要です。

○ 評価規準の設定について

評価規準については、実際に取り上げる教材や学習活動等も考慮しながら、①学習指導要領の指導事項から、本単元で指導するものを決め、②評価規準に盛り込むべき事項を定め、③内容をさらに具体化し、作成していきます。

本事例の「思考・判断・表現」の観点を例にとると次のようになります。

①学習指導要領の指導事項

↓ 問題解決における情報通信ネットワークの活用方法を習得させ、情報を共有することの有用性を理解させる。

②評価規準に盛り込むべき事項

↓ 問題解決における情報通信ネットワークやデータベースを活用する方法を工夫し、それらの有効性を評価し、改善している。

③評価規準

- ・問題解決において、共有すべき情報はどのようなものであるかを考え、その結果を適切に表現している。
- ・問題解決において、情報を共有することの有用性について考え、その結果を適切に表現している。

○ 観点別評価の進め方

本事例の第3時では、生徒の学習活動の観察に加え、生徒の疑問や工夫した点、グループでの役割等、生徒の学習プロセスを記録させるワークシートを活用し、次のような規準での評価が考えられます。

【「おおむね満足できる」状況(B)】

●問題解決において、活動の効率性を向上させる方法や情報技術の特性について整理できている。

【「十分満足できる」状況(A)】

●文字や図の配置、大きさなど独自の工夫により主体的に改善をはかっている。

○ 観点別評価の留意点

「関心・意欲・態度」

評価対象はログの解析、活用場面の観察、発表へ臨む姿勢などがあります。単に発言や挙手の回数のみでの評価とにならないよう留意しましょう。

「思考・判断・表現」

発表会の発言を評価対象とする場合、生徒の発言を丹念に追うことができるようビデオ撮影等の工夫をしましょう。また、自己・相互評価を対象とする場合には、対象物が大量になることから、評価のポイントを絞るなどの工夫が必要です。

「技能」

単に操作スキルのみを評価対象とするのではなく、個々の技能が活動全体を目的に沿って実現させるために有効に機能しているかの視点からの評価も重要です。

「知識・理解」

ペーパーテストに偏ることなく、「技能」の観点と関連付けた評価が必要です。

総合的な学習の時間
(年間指導計画の例)

〈ポイント〉 育てようとする資質や能力及び態度を踏まえた評価の観点を定め、横断的・探究的な学習や探究活動を計画した事例

(1) 具体的な指導と評価の計画

名 称	「卒業研究Ⅱ」(第3学年) ※第2学年の「卒業研究Ⅰ」を継続して実施				
目 標	これまでの様々な学習の成果を統合し、論理的に考え、表現する力を身につけさせ、生きる力を育むとともに、生徒一人ひとりの進路意識向上の一助とする。				
育てようとする資質や能力及び態度	総合的な学習の時間のまとめとして、現在までの学習内容や、調査研究してきた内容を踏まえて自ら課題を設定できる力、1年間にわたり多面的、総合的視点から調査、研究を行える力、研究内容をわかりやすく表現できる力、積極的に課題に取り組む態度を養う。				
指導体制	複数の教員によるティーム・ティーチング				
評価の観点	① 調査・研究に関する関心・意欲・態度 ② 調査・研究の課題設定及び問題解決に向けての手法と論理的考察力 ③ 情報を活用する能力、表現力、プレゼンテーション能力 ④ 各自の研究に関する知識・理解				
評価方法	論文、ポスター発表、口頭発表、卒業研究ハンドブック、ポートフォリオ、行動観察等を活用し、評価の観点に照らして担当教員によって総合的に評価を行う。				
「卒業研究Ⅱ」(35時間) ※「評価の観点」を中心に整理したため、評価規準については省略					
月	時数	テーマ(単元)	主な学習活動	評価の観点	評価方法
4月	3	研究への取組と研究経過報告	前年度からの継続研究の途中経過の報告を行う。	①②④	論文 行動観察
5月	4	中間発表の準備	中間発表用ポスターを作成する。	③④	行動観察
6月	4	中間発表(学校祭)	学校祭でポスター発表を行う。 中間発表を相互評価して振り返る。	①③④	発表
7月	3	論文要旨の作成 研究調査の計画	研究論文要旨を作成する。 今後の研究調査計画を立てる。	①②④	ハンドブック
9月	3	研究調査の考察	研究調査の考察を行う。	②	行動観察
10月	4	研究の深化	友人や教員と意見交換を行い、研究の深化を図る。	②③④	ポートフォリオ 行動観察
11月	4	研究のまとめ	研究成果を論文にまとめる。	③④	ポートフォリオ
12月	3	研究論文の提出	研究論文を仕上げ、提出する。	③④	論文
1月	4	グループ内発表会 学年発表会	グループ内で発表会を行う。 学年発表会を行う。	①③④	発表
2月	3	キャリアプランタイム	自己評価を行って、各自が卒業後のキャリアプランを考える。	①④	ポートフォリオ 自己評価
実施予定時間数	前 期 17時間		後 期 18時間		年 間 35時間

(2) 「総合的な学習の時間」の 評価を行うに当たっての基本的な考え方

○記録方法（指導要録）

「学習活動」の項目

高等学校における総合的な学習の時間において行った学習活動を文章で記述します。

「評価」の項目

各学校が定めた総合的な学習の時間の目標、内容に基づいて各学校が定めた評価の観点を踏まえて、生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等、生徒にどのような力が身に付いたかを文章で記述します。

○評価方法

学習指導要領に示された総合的な学習の時間の目標等を踏まえ、各学校の具体的な目標、内容に基づいて定めた観点による観点別学習状況の評価を基本として、各種の評価活動を進めることが求められます。総合的な学習の時間における生徒の具体的な学習状況の評価については、以下の三つが重要です。

- ① 信頼される評価方法 → 評価の観点や評価規準に基づいた評価
- ② 多様な評価方法 → 異なる評価方法や評価者による多様な評価（組み合わせることが必要）
〈例〉・ 討論や質疑の様子などの **言語活動の記録による評価**
・ 学習や活動の状況などの **観察記録による評価**
・ 論文、レポート、ワークシート、ノートなどの **制作物による評価**
・ 学習活動の過程や成果などの記録や作品などを計画的に集積した **ポートフォリオによる評価**
・ 一定の課題の中で身に付けた力を用いて活動することによる **パフォーマンス課題の評価**
※ **パフォーマンス課題の評価** → ルーブリックを用いた評価（本手引P44のQ17を参照）
・ 評価カードや学習記録などの **生徒の自己評価や相互評価**
- ③ 学習状況の過程を評価する方法 → 評価を学習活動の終末だけでなく事前や途中で位置付けて実施

○評価規準の設定方法

総合的な学習の時間において生徒の学習状況の評価する際には、その単元で実現をねらう「育てようとする資質や能力及び態度」及び「内容」を十分に踏まえる必要があります。

したがって、例えば、各単元において評価規準を設定する場合には、生徒が取り組む学習活動との関連において、各観点に即して期待される生徒の姿を想定し、具体的に設定することが考えられます。

評価の観点を定める際には、前述のように三つの評価方法が重要ですが、いずれの場合も評価規準を設定する際の基本的な考え方や作業手順は変わりません。その手順は、以下のようになります。

- ① まず、各学校の全体計画を基にして、単元で実現が期待される「育てようとする資質や能力及び態度」と「内容」を設定します。
- ② 次に、各観点に即して実現が期待される生徒の姿が、単元のどの場面のどのような学習活動において、どのような姿として実現されるかをイメージします。
- ③ 最後に、実現が期待される生徒の姿について、実際の学習活動の場面を想起しながら、「育てようとする資質・能力及び態度」と「内容」に照らし合わせて具体的に記述します。